




電気柵を設置する



動物を感電させて、心理的に農地から遠ざける方法です。

 サル	 シカ	 イノシシ
△	△	○



長所

- 設置が比較的簡単にできる。
- 動物に対し、教育効果が見込める。
- 景観を維持できる。



短所

- 設置後のメンテナンスに手間がかかる。
- 設置の距離によっては、高価になる。
- 動物から農作物が見える。



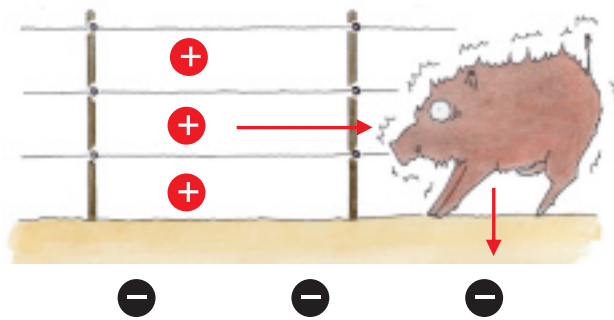
設置場所の条件

メンテナンスのために見回りが必要なので、農地のまわりに見回り用の道が必要となります。また、その道がコンクリートやアスファルトだと電気柵の効果が落ちます。その場合、通電性の高いものを下に敷くなど工夫が必要となります。

電気柵の設置期間中は常に通電しておかないと、イノシシなどに押し倒されることがあります。通電させないときは撤去しておきましょう。

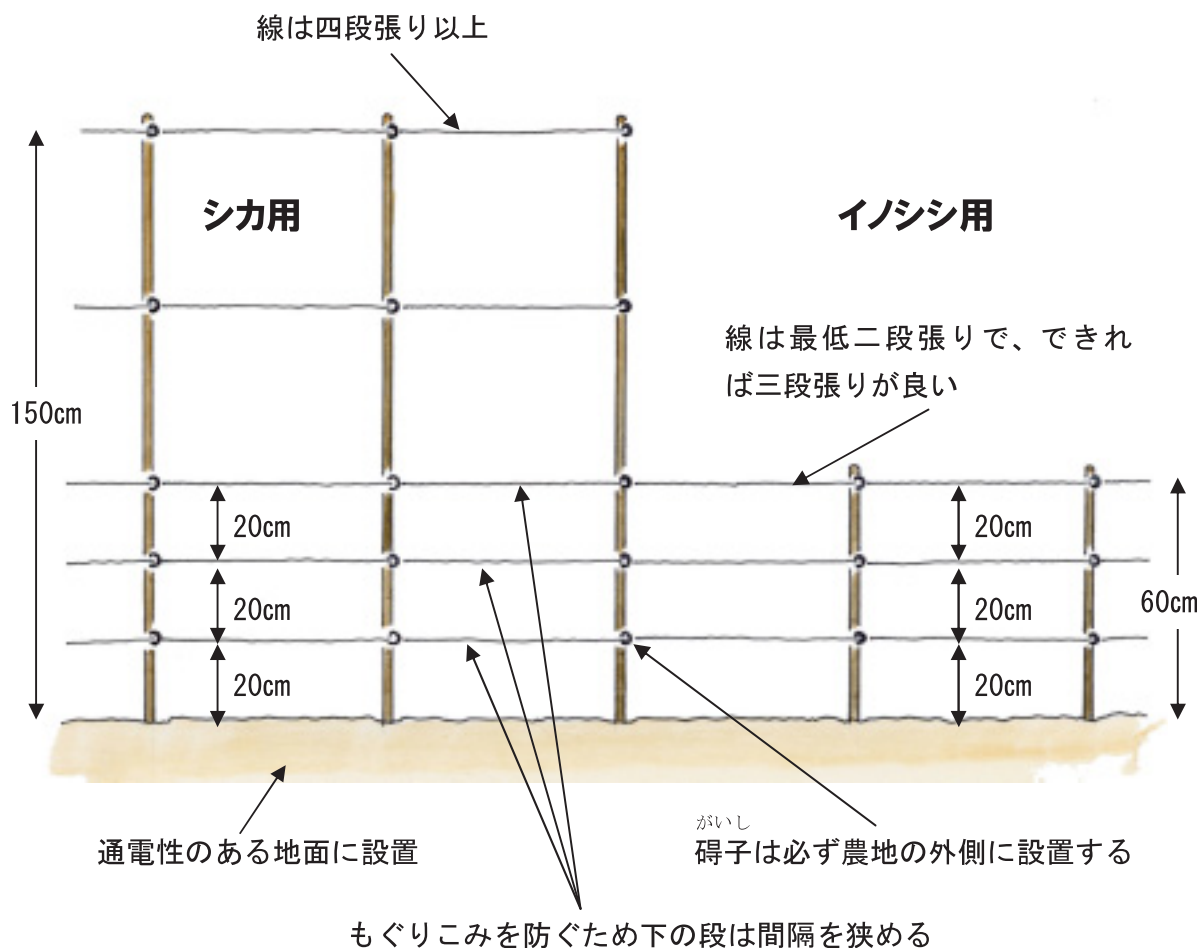
電気柵の仕組み

電気柵は、電線にプラス（+）の電気、地面にマイナス（-）のアースをとります。このプラス（+）からマイナス（-）へ通電して初めて感電します。そのため、地面が通電性の悪いアスファルトやコンクリートだと効果が落ちます。



電気の流れる仕組み

電気柵の設置例



フラスワンアドバイス



溶接金網柵と電気柵を組み合わせた例
(高知県中土佐町)



アースを工夫する

電気柵はアースを工夫することでさまざまな可能性が生まれます。左の写真は、溶接金網柵を利用した例です。通電性のある溶接金網柵と組み合わせることで、アースとして利用でき、設置距離も伸ばせます。また、溶接金網柵の上部に電線を張り、溶接金網柵をアースとして利用すれば、サル対策用として利用も可能です。

猿落君(えんらくくん)を設置する



柵などを登って侵入してしまう、サル対策用に考えられた柵です。

 サル	 シカ	 イノシシ
○	△	△



設置場所の条件

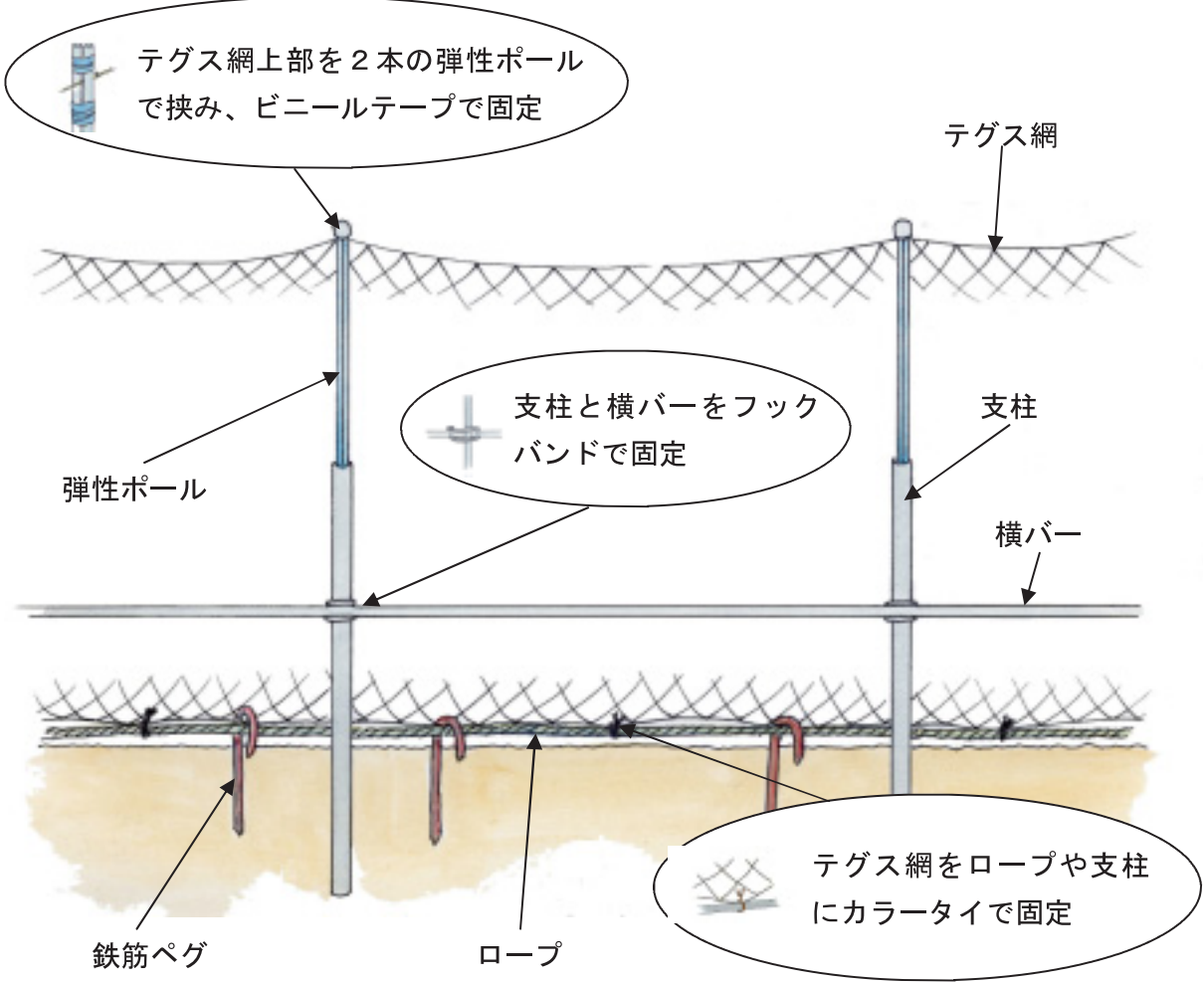
猿落君は奈良県果樹振興センターでサル対策用に考えられた柵です。そのため、設置場所の条件もサルに合わせたものになります。まず、周辺に電柱や、木がない場所が向いています。このようなものがあると、サルは登って、そこから農地に飛び込んだりします。また、メンテナンスのために見回りが必要なので、農地のまわりに見回り用の道が必要となります。

必要な材料

100mあたり

資材	使用量・規格等	備考
支柱用鉄パイプ	60本 (直径19mm・長さ1.4m)	支柱およびドアに使用
横バー用鉄パイプ	20本 (直径19mm・長さ5.5m)	支柱間を連結する
弾性ポール	120本 (直径6.5mm・長さ2.7m)	支柱用パイプに2本一組で差し込んで使用
フックバンド	100個	支柱と横バーを固定したり、ドアの蝶番として使用
ロープ	100m	テグス網の地面への固定に使用
鉄筋ペグ	100本	ロープの地面への固定に使用
カラータイ	500本程度	テグスネットの固定に使用
ビニールテープ	3巻	2本のダンポールを上部で固定させる
テグス網	6巻	テグス7号、幅3m×長さ20m

猿落君 (基本型) の設置例



プラスワン・アドバイス



おうみ猿落・猪ドメ君
(香川県東讃農業改良普及センター展示ほ)

猿落君を進化させる

猿落君は“進化する柵”という考えで作られています。そのため、各地域で工夫が行われ、サルへの効果を高めただけでなく、イノシシにも対応した滋賀県農業技術振興センター湖北分場開発の「おうみ猿落・猪ドメ君」も考えられています。みなさんも工夫して猿落君を進化させましょう。